ゼロカーボンシティさの実現に向けた
ロードマップ策定懇談会（第３回）　要旨

１　会議開催年月日
　令和５年９月２７日（水）午後１時３０分から３時

２　会議開催の場所
　市役所本庁舎６階　大会議室Ｃ

３　出　席　委　員
　別紙のとおり

４　会議の進行状況

【開　会】
　事務局より開会宣言　午後１時３０分　開会

【あいさつ】

〈会長より開会あいさつ〉
　今までの会議で、自分自身も本当にカーボンニュートラルや各業界について、勉強させてもらっている。本日の会議においても、佐野市のロードマップが市民や事業者を巻き込んでいけるようなよいものとなるよう、有意義な意見交換の場にしていただきたい。

【議事（１）ロードマップ素案について】
　ロードマップ策定に係る業務を委託している平成理研(株)から、ロードマップ（素案）の概要を説明。
〇議長から意見・質疑の有無の確認。
〈質疑〉
〇佐野農業協同組合　金井委員
・ソーラーシェアリングに関する記述があるが、生産性が下がるイメージがあることから、普及は難しいと考えている。積極的に推進していくイメージの記述は抵抗がある。
〇事務局
・実情を考慮し、適切な表現を検討する。
〇環境省関東地方環境事務所　増田委員（代理：和田放射能汚染対策課長）
・幅広く施策を盛り込んである。どの施策をどこまでできるのか、具体的な検討を。
・重点施策２について、実現可能性を鑑みながら、エネルギーの地産地消の取組などの検討をしていただきたい。
・特性として、太陽光発電による割合が大きい。導入済み太陽光についてもかなりの量である。対して、太陽光にはマイナスのイメージもつきものであるため、バランスのとれた普及策を。
・推進体制に地域を巻き込み、一緒にカーボンニュートラルに取り組んでいけるようにしていくとよい。
〈議長から、すでにロードマップを策定している県に見解を要望〉
〇栃木県気候変動対策課　熊久保委員（代理：福島気候変動対策課　副主幹）
・法定計画らしさがあり、一般市民にはわかりづらい内容と感じる。ロードマップは具体的な行程表となるのが望ましい。
・ロードマップ上では、取組事項をもう少し大きな枠で設定したほうがよい。

・熱利用については方策を精査したほうがよい。かなり難易度が高い。
・全体的に挑戦的な内容となっている。重点施策３の木質バイオマスの関係は、重点施策１に包含されるものと思われる。別の森林吸収源施策としてはどうか。
〇東京電力パワーグリッド(株)　栃木南支社　支社長　金子委員
・栃木県は、再エネ発電量が県全体の需要量の倍ある。
・産業団地造成時などに地産地消モデルを導入するなどが
・発電量は申し分ないが、夜間の使用ができないうえ、使用量と供給量を一致させなければならないという送配電の特性を考えると、「蓄電」が重要な要素となる。
〈議長から、ロードマップ素案について、委員全員に見解を要望〉
〇公募委員　丸山委員
・企業と一般市民の温度差を感じる。危機感をもっと伝えていく必要がある。
・太陽光は景観の悪化につながる部分はあるが、地球にとって必要なのであれば、そちらを選択していきたいと思う。環境に優しい計画にしていただきたい。
〇公募委員　初山委員
・自宅に太陽光を設置することを以前は断った。しかし、本懇談会での話を通して、自宅にも太陽光を導入すべきだという思いが生まれてきた。
〇消費生活リーダー連絡協議会佐野支部会長　石澤委員（副会長）
・本素案に示される内容より、もっと具体的なものが、市民の行動変容には必要である。
・省エネ機器や設備等に対する補助において、より使いやすい（補助基準が低いなど）補助等が必要と考える。
〇(一社)栃木県住宅協会　事業推進委員　福田委員
・太陽光・蓄電池の採用率はハウスメーカーによって大きく異なるため、事業者に対するアプローチがより重要。
・新築においては環境は二の次。費用面への補助が効果が大きい。
・既存住宅をお持ちの家庭は環境というワードに反応できる余裕があるため、光熱費削減ができるメリットを推しての再エネ＋蓄電池の普及を促進してはいかがか。
〇佐野農業協同組合　金井委員
・環境に配慮された肥料等で生産された農作物に、それに見合う価値がつくなら取組は十分行える。ビジョンは見えているものの、なかなか最初の一歩が踏み出せない状況である。
〇佐野ガス(株)　取締役常務執行役員　中村委員
・熱利用は難しい領域。
・ガスコージェネレーションや、廃熱利用による省エネなどが効果的。
〇栃木県石灰工業協同組合　理事長　駒形委員
・会員は 13 社であり、そのうち太陽光の導入や、省エネ機器の導入などを積極的に実施している企業もおり、業界目標値は達成している状態。
〇一般社団法人　佐野工業団地管理協会　総務部会長　市川委員
・2040 年頃には大量に設置された太陽光の廃棄のタイミング。設置継続を求める策が必要かと考える。
・太陽光パネルの解体→廃棄過程においては、解体時の感電事故や有害物質の埋め立て処分に係る問題などが発生するため、太陽光発電は、そういった側面をもつものであるということも頭に入れておいていただきたい。
〇（一社）栃木県トラック協会　副会長（佐野支部長）　村田委員（代理：寺内氏）
・我々ができることというと、エコドライブ、輸送の効率化、共同配送程度である。
・輸送業としては、輸送を減らせば輸送に係る排出量が減らせるが、収入も減ることになるのでなかなか困難。

・EV 導入を考えても、価格面、充電設備の不整備から導入しづらい。
○佐野地区タクシー協会　代表　白井委員
・コンパクトシティに係る内容がロードマップに出てこない。佐野市でも推進していると思われるので、ゼロカーボンと絡めた議論をすべきでは。
○（一社）栃木県バス協会　専務理事　小矢島委員
・佐野市がリーダーシップをとって推進していくことが伝わる内容とすべき。
・進捗管理、推進体制を詳細に。
・2030 年から 2050 年の間隔が気になる。2040 年における中間目標などもあってよいのでは。
・未来を担う子どもたちに対する環境教育に関する内容をより充実させるべき。
○（株）下野新聞社　佐野支局　支局長　久保委員
・42 ページ以降のロードマップが最初に示されると全体がつかみやすい。
・または、概要版の作成を検討していただきたい。
○佐野市あそ商工会　副会長　大関委員（代理：大木氏）
・設備投資ができる会社もあればできない会社もある。
・取組として書いてある内容が、目的として記載のある内容を達成できるものになっていない。
・記載する内容の実現可能性を意識しつつ、内部の調整等も考慮して作成を。
○佐野商工会議所　産業経済委員会　委員長　井川委員
・佐野市の特性を生かした内容になっていない。実態を伴っていないものになっている。
・盛んな石灰業、豊かな里山林、交通の要衝といった点にフォーカスした内容となっていると佐野市らしさが出てくるのでは。
・木材はバイオマス発電だけでなく、端材からの集成材生産もできるなど、生かし方は多分にある。
○（株）ゼロボード　脱炭素支援経営エキスパート　石森委員
・ライフサイクルアセスメントの視点を盛り込んだ脱炭素施策の展開を。
・適切なモニタリングとアセスメントが重要。
・意識向上では足りない。行動変容と記載しなければならない。
・脱炭素化を支える専門人材の育成に関する取組も必要。
・農業分野において、取組等に関するガイドライン等を参照し、内容の盛り込みを検討していただきたい。佐野市の特性を生かせるものになると思う。
○会長から、議事１の総括
・市だけではなく、市民・事業者を巻き込んだ取組を。持続可能な脱炭素に関する取組を行っていくためには、委員の方の多くが仰っていたが、教育が非常に重要であると思う。

【議事（２）今後のスケジュール（案）について】
○事務局より、今後のスケジュール（案）について説明。
議事に関する意見等なし。

【その他について】
○事務局より、今後各団体や企業の方へ、直接の協議をさせていただく予定でいる旨を説明。
○議長から意見・質疑の有無の確認。意見特になし。

【閉会】
事務局より閉会宣言　午後３時　閉会